

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970700645		
法人名	有限会社 みんなの家どんぐり		
事業所名	グループホーム どんぐり		
所在地	山梨県南巨摩郡増穂町小林1954-7		
自己評価作成日	平成22年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成22年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人生の晩年を生きる方々と共に暮らすという視点で、ケアをさせていただいています。『～したい』という気持ちを引き出し、一緒に楽しんだり、笑い合えるために、地域の行事への参加やホームでの季節の行事をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リクライニング車いすに乗る介護度の高い利用者が3名と他の人も介護度は高い。日常業務も大変と思われるが、ホスピスの精神で最期までを基本とし、肩肘張らずにごくごく自然な態度や考え方で支援している。共用スペースや居室も自然な雰囲気や落ち着けるように作られていた。総てに暖かい心があり、グループホームのあるべき姿と評価する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が(行きたいと言った人) 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが(全体の) 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(グループホームどんぐり)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり、のんびりできるように支援している。	利用者の介護度が高いため、少しでも長く側で寄り添えるよう、業務改善の話し合いを行った。その結果、話し合いやミーティングの時間を出来るだけ短縮し、日常業務の中で理念の共有と実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶はしているが、日常的な付き合いはない。新興住宅街で会ったり、農地であったりで、日中人氣がない場所である。	隣組に入ろうとしたが、「役が引き受けられないから」と断られた。小林地区では 運営推進会議に区長が参加し、保育園の運動会や体育行事で歓迎されている。組に受け入れてもらえる事を今後の課題としている。	地域住民の認知症への理解を深める為に、隣組との付き合いは大切と考える。住民自身の為にも学びとなる機会であり、今後も組との付き合い方を検討し前進させるよう希望する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。	家族4人・行政・地域包括・区長・事業所職員の参加で、行事の説明・防災訓練・介護保険の説明等多岐にわたり報告し、相談している。食費値上げの提案は、自助努力を求められたが、最終的には認められた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型インフルエンザの対応など、相談した。	行政の担当者が運営推進会議に参加しており、相談した事には応えてくれる。事業所の代表者は町の各種委員に任命され、日常的に繋がりが強い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に当たる項目について、理解している。	同時に複数の人が動き出したり、ティッシュ等異物を口に入れる利用者も居り「ちょっと待つて」と言葉による制止になる事がある。安全を確認し見守る、介護に優先順位をつける、落ち着かせる等、状況判断し行動するよう務めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	きちんと機会を設けているわけではないが、家族等の意向は、家族が面会に訪れるたびに話を聞き、反映しているつもりである。	月1回の事業所便りの郵送時や面会の折に家族の意見・要望を聞いている。面会の少ない家族も、運営推進会議には出席されて居り、出された意見で必要な事は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを行い、そこには必ず法人の代表と管理者が参加、皆で話をする機会を設けている。	毎日のミーティングや月1回の合同ミーティングで意見を出し合っている。また、日常業務の中で職員同士で話し合い、管理者に伝え、管理者を経て代表者に報告される。必要な事や実行可能な事は反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	『ここで働きたい』と思ってもらえるような努力はしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へは、積極的に参加してもらえるように努力し、自己研さんに努めてもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域のグループホーム同士の交流会や、グループホーム協会の研修へ参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務に追われ一方的になりがちなのもあるが、気持ちは共同生活をしているという意識を持って介護にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と相談しながら本人を支える支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重介護の方が多くなり《ふるさと訪問》は困難になっているが、外出できる方などは、自宅や近所の畑を散歩している。また、デイサービスへ通ってくる友人と交流をしている。	本人の体調・希望・季節を考慮して、ふる里訪問を行っていた。家の前で入るのを拒否する人や山奥で廃墟になっていた事もあった。現在は、利用者の体力面で継続は困難になっているので、身近なところでの交流を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のフォローをしたり、席の配置を考えたり、一緒に楽しめる企画をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームの納涼会、忘年会へのお誘いをしたり、野菜をいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が意向を言えない方がほとんどの中で、家族と相談しながら、本人の気持ちに寄り添う形で支援に努めている。また、伝えられる方の場合、意向に沿う形で支援に努めている。	意思を伝えられない人は、表情・仕草・食欲・反応から、意向をくみ取る。伝えられる方も、季節の変わり目、夕方、便秘時等「死にたい」「川に流して」など口にし、落ち着かなくなる時がある。手を握ったり、慰めたりで心を添えて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人はもとより、入居前のサービス事業所からの情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを怠らず、日々の変化の把握、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を反映させ、話し合いを持って計画作成をしている。	一人ひとりを受け持ち制とし、カンファレンスやモニタリングで話し合い、家族や職員の意見を聞きながら、受け持ちが計画を立案している。受け持ち制にした事により、計画への意識や責任感が強まり、実践の場により活かされるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録により、現状の把握・変化等の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のお祭りで気球に乗った。また、家族が対応困難な時は、受診介助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の力を活用するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が中心となり、主治医との連携を図っている。	希望により、今迄のかかりつけ医を家族対応で受診、大半は往診医に受診している。体調の変化時は、家族に連絡し往診に立ち会ってもらう事もある。往診医と看護師の信頼関係は良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が中心となって支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	「ホスピスの考え方で、自然な形で最期までを支援する。」を事業所の基本としている。家族の意向で、終末期、家に連れて帰ったり、病院に入院したケースもある。ホームの看護師と往診医と通所の看護師との信頼・協力関係が良い。最期を迎える時、家族もホームに宿泊し、3人を穏やかに看取った。	最期までの支援は大変な課題がある為、多くの事業所では現在行われていない。家族の希望は多い為、今後もホスピスの心で継続されるよう願っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行われていないが、そのようなことが起こりうることを想定した訓練は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方も参加をお願いし、夜間の避難訓練を行った。	地域住民・行政・消防団協力のもと、夜間想定避難訓練を行った。住民が車いすを押してくれたり、非常ベルの聞こえ方に感想を出してくれ、協力関係は築かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	県主催の認知症介護の研修会へは積極的に参加している。	一人ひとりの人格や性格を尊重して誇りを傷つけない態度や、言葉かけを行っている。職員同士で確認したり、他施設との交流会の中で学んでいる。身内から電話などで利用者の状態を聞かれる事があり、家族の許可を要件としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの食事、排せつ、清潔に時間がかかる。どのように過ごしたいのか、コミュニケーションが取りにくい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からきていた洋服を、色、柄などを組み合わせて着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りが出来る人がいないが、できること、たとえば茶碗ふきなどを一緒にやっている。	食べる事が辛くなっている人もあり、メニューの希望や作業を共に行える人はいない。一人ひとりに合った食形態で時間をかけてゆったりとした支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンをチェックし、尿意がある人にはトイレでの排せつをしていただいている。	排泄パターンをチェックし、尿意のある人は声かけをしてトイレで排泄している。尿意のない人も時間や仕草・表情を見守り、清潔が維持できるようなおむつ交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい希望があった時は入浴していただいているが、お風呂が嫌いな人もいる。	一日おきの午前中、普通浴でゆったりとした入浴を支援している。入浴を嫌いな人が1人いるが、無理強いせず中止する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、全職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	『～したい』『～が食べたい』『～へ行きたい』と、その気持ちに沿った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気球に乗ったり、買い物、散歩へ行っている。	1日おきにドライブを兼ね、食糧の買出しに出かける。「寝ているほうがいい」と外出したがない人もいる。ホームの周囲が果樹地帯の為、季節の花や畑の中などに連れ出したりする。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『お金の計算が出来ないから預かって欲しい』と、頼まれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけることが出来る人は電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつ・カレンダー・クリスマス飾り等々、工夫を凝らしている。	飾りつけ・家具・コタツなど、ごく普通の家と同じような雰囲気になっている。ほとんどの人が難聴だが、時に大声でしゃべり出す人もあり、うるさいとの意見が出る事もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の工夫(話の合う人同士を隣にしてみる)や、廊下のソファで一人になれる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・お花・家族の写真・仏壇が置いてある。	畳の部屋で、天井や照明器具・家具など普通の家と同じような雰囲気になっている。入居時使い慣れた小物は持参しているが、ベットなど大きな物は搬入困難で、持ち込まれていない。車いすの人には、事業所のベットを勧めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりなどを活用し、安全な移動が出来るとの配慮を行っている。また、廊下のスペースを広くとり、自分で車いす移動が出来るようにしている。		